

『未来・社会を切り拓くための算数教育』
～主体的・対話的で深い学びによる探究力の向上を目指して～

宮崎県日之影町立日之影小学校 武内 研人

1. 主題設定の理由

ソサイエティ 5.0 の到来など、変化し続ける未来・社会を切り拓いていける児童の育成が必要となっている。今回の学習指導要領改訂の基本的な考え方の一つに、「主体的・対話的で深い学び」の視点がある。昨年度の西臼杵郡の研究では、「主体的・対話的で深い学び」について授業レベルで解明していった。そこで本年度は、「主体的・対話的で深い学び」をどのような方法で追究していくか、本校の実態と照らし合わせ実践を行った。

2. 仮説

今回、探究力を「自ら課題を設定し、解決・理解に向かって粘り強く取り組む力」と定義した。主題に対し、問題解決的な学習指導過程を工夫し確立することで、主体的・対話的で深い学びのある授業が成立し、探究力が向上するのではないかと考え研究を行った。

3. 研究の実際

本校では、主題に対し以下のような実践を行った。

(1) 児童司会の確立

複式指導の実態に合わせ、児童司会を確立した。

(2) 話し合いマニュアルの作成

司会する児童がスムーズに進行できるよう、マニュアルに沿って進行できるようにした。年度後半には、マニュアルからの脱却を図った。

(3) ヒントカードの活用

児童が問題を解決する際の選択肢のひとつとして、自力解決を助けるようなヒントカードを用意した。

(4) ホワイトボードの活用

話し合いの練り上げなどで、児童の思考過程を説明するためのツールとしてホワイトボードを活用した。

(5) 認め合う場の設定

授業のまとめを終えた後、互いの考え方や発表のよさを伝え合う場面を毎時間設定した。

(6) 振り返りの時間の確保

児童の気づきを把握したり、学習意欲を高めたりするためにふりかえりカードを作成し、活用した。内容は以下のような項目である。基本は3段階で自己評価する。単元ごとに新しいカードを用意した。

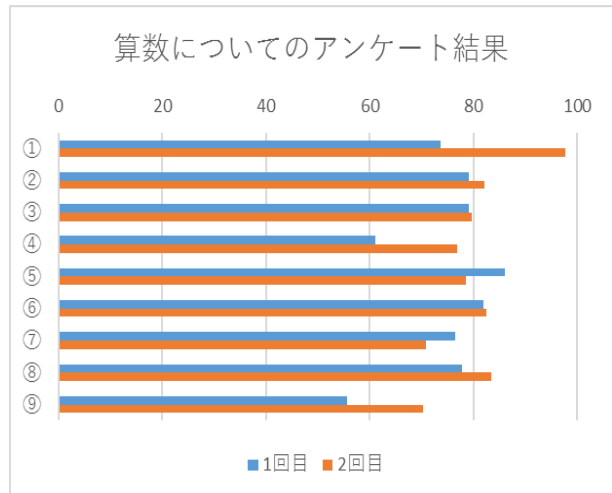
- ①自分の考えをもつことができたか。
- ②発表や話し合いを進んでしたか。
- ③今日の学習ができるようになったか。
- ④算数のよさが分かったか。
- ⑤感想（分かったことや考えたことを自由記述）

4. 研究の成果と課題

研究前後でアンケート調査を行い、その結果を基に成果と課題を明らかにした。

(1) アンケート項目と結果

- ①まず、自分の力で考えて問題を解こうとしている。
- ②問題を解くとき、いろいろな方法（言葉・式・図・ブロック・表・グラフなど）で考えている。
- ③自分の考えを説明することができる。
- ④友達のことを聞きながら、自分の考えをよりよくすることができる。
- ⑤話し合いをすることで、よりよい考えへとまとまる。
- ⑥学んだことをいかして問題を解いている。
- ⑦「はかせどん」を考えながら問題にとりくんでいる。
- ⑧自分たちで話し合い活動を行うことができる。
- ⑨学習の「めあて」と「まとめ」を自分で考えている。



(2) 成果と課題

①や④、⑨の項目が大きく上昇していることから、自分の考えをもつ児童へ変容したことが分かる。これは、主体的な学習ができ、探究力が身につけていると言えるであろう。一方、⑤や⑦の項目は下降している。ここから、個人内で多様な解法の処理が追いついていないことが分かる。これは、解法の何がよいのかまで理解が及んでいないことが考えられる。しかし、CRTの結果と比較すると、全国平均に対する得点率が昨年度よりも微増している。つまり、これまでの取組は学力向上につながると言える。

(3) 考察

主体的で対話的な学習により探究力は身についた。今後、深い学びを追究する研究に取り組んでいきたい。